

審議会等の名称	令和元年度第2回阿見町立学校再編検討委員会
開催日時	令和元年11月28日(木) 午後7時00分から午後9時40分
開催場所	阿見町役場 3階 第301会議室
出席者	<p>(委員)</p> <p>北澤孝雄委員長, 糸賀 忠副委員長, 浅野榮子副委員長, 齊藤久芳委員, 角 慶一郎委員, 木道則夫委員, 葉梨健次委員, 藤山英夫委員, 滝本由香里委員, 小松崎孝守委員, 高野好央委員, 金井智宏委員, 新村英之委員, 小田島秀二委員, 湯原敦子委員, 百瀬伸也委員, 久保谷 実委員 計17名</p> <p>(町教育委員会)</p> <p>教育長 湯原正人, 教育次長 朝日良一, 学校教育課長 武井 浩, 指導室長 東 治樹, 学校教育課長補佐 恵美和彦, 学校教育課主任 大澤陽太</p>
欠席者	<p>(委員)</p> <p>薄田 勝委員, 南雲明夫委員, 大高悦子委員, 久保谷梨絵委員</p>
議 題	再編計画について
公開・非公開の別	公開 *傍聴者2名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長あいさつ 4. 議事 <ul style="list-style-type: none"> 再編計画について 5. 閉会

発言者	発言の要旨
副委員長	<p>1. 開会 これより第2回学校再編検討委員会を開会します。</p>
教 育 長	<p>2. 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。寒い中、また段々とお忙しくなる時期の中でご出席をいただき本当にありがとうございます。前回の第1回検討委員会では、委員の皆さん個人としても、代表としても、想いの詰まった意見を本当に沢山いただきました。大変参考になり、ありがたく感じています。今日は2回目ということで、前回は意見の広がりがあったと思いますが、諮問事項について検討をいただければと思います。宜しくお願い致します。</p>
委 員 長	<p>3. 委員長あいさつ ご多用のところご出席をいただきありがとうございます。ただ今、教育長からのお話もありましたが、前回は第1回目ということで、教育長からの諮問事項についてこの委員会ではどのように取り組むべきなのかと、活発なご意見が出されました。本日は2回目となりますので建設的な意見を出していただき、具体的な方向を見出すことができればありがたいなと思っています。宜しくお願い致します。</p>
事 務 局	<p>4. 議事 ここで事務局より申し上げます。阿見町審議会等の会議の公開に関する指針に基づき傍聴者を募集したところ、2名の傍聴希望がございました。なお、会議の内容は録音の上、議事録は公開いたします。 それでは議事に入ります。議事の進行については阿見町立学校再編検討委員会規則第6条の規定により、委員長が議長となります。委員長、宜しくお願いします。</p>
委 員 長	<p>それではこれより議事に入ります。円滑な議事進行を心がけてまいりますので、皆様方のご協力をお願い致します。 「再編計画について」を議題とします。今回事務局では、前回の第1回検討委員会で皆様からいただいたご意見を基に、沢山の資料を用意していただきました。ではまず〔資料1〕の君原小学校の学校再編に関するアンケート集計結果2について、君原小PTA会長の委員からご説明をお願いします。</p>
委 員	<p>アンケートを行うまでの簡単な流れを説明します。昨年度になりますが、7月に意見交換会があり、その後PTA本部役員で集まり、君原小としても4、5年協議をしていますので、そろそろどちらかに方向を決めなければならないということをお話しました。その段階では決めかねていたので、もう一度アンケートを採って、その結果を基に本部として意見を出そうということになりました。また、アンケートをする前</p>

	<p>にはどちらか多い方に決めるという話があり、今年1月にアンケートを行いました。</p> <p>そのアンケートの結果、存続という意見の方が多かったので、PTA本部として存続と決めさせていただき、その後、今年度に君原小検討委員会を行い、君原地区の方に同意を得ましたので、今年5月に教育長宛に存続ということをお伝えしました。アンケートの流れは以上です。</p>
委員 長	<p>ある程度、アンケートのポイント的なもののご説明もよろしいですか。せっかくご用意された資料ですから。</p>
委 員	<p>全児童を対象に、子ども一人に対して1枚という形でアンケートをさせていただきました。中には読み取れないアンケートや無回答のものもありましたので、100%ということにはならなかったのですが、このようなパーセンテージで提出していただきました。(※補足 アンケート回収率86.3%で、対象者73名中、回収数63名)</p> <p>結果として統合した方が良いが33%、存続した方が良いが59%、無回答が8%となりました。存続するにあたって、小規模特認校を導入するというのがその前の話でありましたので、存続して小規模特認校を行うというのが、存続する方の意見として87%、今のままで存続が11%、無回答が2%となりました。次のページに保護者の方の意見も色々とまとめてありますので、皆さんに読んでいただいた方がわかりやすいかと思います。説明は以上にさせていただきます。</p>
委 員 長	<p>ただ今、委員から〔資料1〕について、結論のご報告をいただきました。自由意見として、1年生から6年生までの保護者のご意見が書かれています。今、委員の皆様も初めてご覧になったかと思いますので、見ていただいて、不明な点がありましたら質問を受けたいと思います。少し時間をおきたいと思います。</p> <p>(しばらく間を置く)</p>
委 員	<p>少し質問をよろしいでしょうか。アンケートで統合をした方が良いのか、良くないのかというところで回答数があると思いますが、この回答は子ども一人に対して1回答でしょうか。</p>
委 員	<p>そうです。3人兄弟がいるところは3人分をお渡ししてやっていただきました。</p>
委 員	<p>このアンケート結果は、PTA役員の方の集計結果ですか。意見は保護者の意見となっていますが。</p>
委 員	<p>保護者全体です。子ども一人に対して、当時73人の児童数がありましたので、73人分のアンケートを。例えば兄弟がいれば2枚もらった方もいます。</p>

委員	そうすると保護者が2枚、3枚と書くと。
委員	はい。年代別というか、学年がバラバラで兄弟のいる方もいますので、そこを一人としてしまうと何年生の意見というのが出せませんでした。そのため兄弟のいる方は2枚出して、年齢別のアンケートという形でこのように集計させていただきました。
委員	そうすると自由意見というのは2年、3年と書かれていますが、子どもが3人いた場合はどのようにここに意見が反映されているのですか。
委員	同じアンケートが3つありますので、もしかしたら3つ入っている場合もありますし、学年でもらったアンケート集計の意見を出したような流れなので。無記名でやりましたので誰がどれかというのは知らずにやりました。
委員	統合した方が良いという回答数が21とあります。たしかに多数決で言えば存続した方が良いが多いのでこれで分かりますが、今回、小規模特認校でこういう風にするのと、そして町の方に要望するというのを、統合した方が良いという保護者の方たちには了解を取っているのですか。
委員	アンケートの段階で、例えば統合したい方に小規模特認校をやりますかと聞くのはおかしいと思いましたので。
委員	でもそれが後々、色々な問題が出てくるのではないかと思います、聞いてみたのですが。
委員	この結果を基に今年のPTA総会で説明した時には質問等はなかったもので、皆さん納得してくれたのかと思って話を進めたのですが。例えばですが、今回存続した方が良いの割合が多かったのも、それが統合した方が良いが多かった場合は、そちらになった可能性もありました。アンケートを基に決めようという、元々の話がありましたので。どちらか多い方に決めると。 結局統合したい方も、アンケートの集計結果を出したときに納得と言いますか、最初に多い方に決めると言いましたので、納得していただいたのかなと受け取りました。小規模特認校という話はPTA総会の時しか話していませんが、誰が存続か統合か分かるアンケートをしてもらったわけではないので、全体の中で話をさせていただいたのが今回の結果になります。
委員	そこが、例えば前回の、平成25年の再編委員会でまとめられたときに、皆さんがきちんと了解をしたときに統合するというまとめ方でしたよね。それに沿って言え

委員	<p>ば、今回もそういうのをきちんとまとめて認定を受けないと、後々色々な問題がまた出てくるのではないかと思うんです。</p> <p>昨年度の話になりますが、君原小だけ統合か存続かが決まっていなかった段階で、アンケートがなければ決めきれなかったというのが正直ありました。アンケートの多い方というのを本部で話し合い、すごく細かなところまでは話していませんが、存続と決まったことを皆さんに説明したときに、そのことに関しての意見がなかったものですから、納得をいただいたという形で進めさせていただいています。</p>
委員	<p>今の関連ですが、再編計画が立派なものが作られて結論も出されていますよね。その時の経緯ですが、こういう案で行きますということについて、地元との合意形成がされた上で再編計画が出来上がっていると思うのですが、そうですね。</p>
委員長	<p>前回もご報告させていただきましたが、この検討委員会の中では適正配置ということで統合するとしました。5校に再編すると決めましたが、概要版5ページのとおり、統合対象校の4校については、それぞれ別途検討委員会を作ってください、そこで話し合いをして、皆さんが合意に達すれば再編統合するということです。</p> <p>なぜそうしたかという、前回の検討委員会の中では様々な意見があり、全員一致というわけにはいきませんでした。なんとか統合したいという考え方に対して、統合反対という意見も相当あったわけです。2年経ち、何らかの形でこの検討委員会の結論を出そうという気持ちを皆さん持っていて、ではどうしたら皆さんに合意してもらえるかという所で、この概要版5ページにあるような段階を経て、合意を得て統合ということで委員皆さんの合意を得ました。</p>
委員	<p>そうすると、当初の検討委員会の結論が概要版4ページにあります。これは一つの案、一つの計画であって、これをもって地元で検討してくださいという理解でよろしいですか。</p>
委員長	<p>統合対象校についてはそれぞれの地域で検討委員会を設置してください。そこで合意に達しない場合には統合はできないということが第一回検討委員会の中でありました。</p>
委員	<p>そうすると今、意見が出ているのは君原小だけですが、他の統合対象校についてはそういう意見が挙がってきていないというのは、これに賛成しますという理解でよろしいですか。</p>
委員長	<p>当時の検討委員会から4年経過していますので、私も現段階では君原小のことしか分かりません。実穀小と吉原小の二校は統合しましたが、もう一校、第二小があり</p>

	<p>ますが、これがどのようになっているかは存じ上げません。</p> <p>今日は君原小だけで、私たちの話をすると長くなってしまうので差し控えようと思っていたのですが、今、第二小も同じように存続させてほしいということで署名運動をやっています。要するにアンケートを採りました。PTA の 7、8 割が存続してほしい、子どもたちも存続してほしいと。</p> <p>この前、阿見台のお祭りに町長が来て、子どもたちが町長に嘆願して、町長お願いします、第二小を残してくださいと言っていました。私もそれを見て、流れ的には私も検討委員会をやっている、もう決まったことですので、決してちゃぶ台をひっくり返すつもりはないのですが、一番大事なのは子どもたちなんです。やっぱり何が大事なのかと考えたときに。</p> <p>私もメリット・デメリットを考えました。第二小が阿見小と一緒にあって良いことは何かと。ほとんどメリットがないんです。文化、環境、災害、コミュニケーション、いろんなことを考えて。大きな災害があるというときに、第二小はコミュニケーションがすごいんです。おやじの会も本当にまとまっています、何をやっても上手くいっています。こういう上手くいっているところをわざわざ、子どもたちも不安になって、他の学校に行って上手くいけるのかと。もちろん指定校変更で行っている方もいらっしゃいます。けれどもそれは自由ですから。そういった声を聴いて、既にアンケートを採って進めています。</p> <p>安全面でも阿見台を例に挙げれば、阿見台から第二小に行くのに何も不安がありません。阿見台の中を抜けていけばすぐ行けます。これが阿見小になったら大きな通りをずっと行って、大きな交差点やカーブを通過して、車が飛び込む危険性もある。いろんなことを考えてもメリットがないんです。あるのはお金だけです。あるのは経済的な効果、町としての効果、人件費です。</p> <p>学校を再編するとお金を使わない、そう言えないのはわかりますが、メリットがあるのは統合すれば人件費が、というのがあるのかと。けれどもそれを除けば、ほぼメリットがないんです。一番大事なのは子どもたちです。子どもたちが、今年も暑くてクーラーがないと町長に話してつけてもらえました。環境も今までで一番良くなっています。災害が起きてもコミュニケーションがすぐ取れます。何かあっても。だからお金の面でそうなのかなと。今そういう経緯でアンケートの署名活動をしています。</p>
委員 長	<p>ありがとうございます。委員は、第一回目の学校再編検討委員会で私も一緒にやらせていただいた仲ですから、当時のことは先ほど私が申し上げた内容でご理解をいただいていると思います。新たな今の発言については、そういう動きがあると今初めて聞かせていただきました。ただこの検討委員会では、今回は君原小の件ですから。</p>
委 員	<p>はい。</p>

委員 長	<p>そのような動きがあるということをお聞かせいただきました。委員、宜しいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。結局、今回のメインテーマは君原小の統廃合の件に関してで、町全体の計画はまだ案ですよね。合意形成を前提としていない段階での案であって、実際に統合している学校もあるようですから既成事実化しているものもあるのでしょうか。</p> <p>計画の案ということで、広く第二小も対象校に含まれますという前提の認識ですよ。今回は君原小がメインで結論を出させていただくと。そうすると今言っているのは初めてなのですよ。合意形成は案に基づいて意見を出している段階という。</p>
委員 長	<p>この再編計画が案ということでしょうか。これは正式に決定されています。</p>
委員	<p>決定されていても、合意形成がされないままの計画ですよ。今のお話ですと。</p>
委員 長	<p>少しお待ちください。我々検討委員会としては、先ほど申し上げた意見がありましたので、この方法で答申をさせていただきました。この検討委員会は答申をして終わりです。最終決定は教育委員会がいたします。</p>
委員	<p>答申案を受けて、教育委員会が発行した計画ですよ。</p>
委員 長	<p>案ではないです。決定した内容と私は理解しています。</p>
委員	<p>では地元の合意というのは無視したまま計画を決定されたということでしょうか。だから今、こういう意見が挙がってきているということなのか。それとも一旦、君原も合意したけれども、改めて検討した結果、存続という案が出ているということなのか。</p>
事務局	<p>要するに、もう既に君原が合意決定をして、それでこの計画が出来たのかということそうではありません。あくまで計画が先です。計画があって、この計画に基づいて各地域で、小学校区単位で検討委員会を開いていただいて、それで協議をして合意形成を図っていただくと。図れると統合に向かって進んでいく、そういう計画です。あくまで合意が得られたからこの計画が出来ているわけではありませんので、ご理解をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>私の「案」という言い方が誤解を招いているのかもしれませんが。計画といっても合意のなされない段階での計画ということですよ。答申を受けて教育委員会がこれを計画として出したわけですが、地元の合意はこれを受けてから検討してくださいと。各対象校の地区はそういうことですよ。それで今、意見が挙がっていると。それ</p>

委員長	<p>で今度は第二小も今から意見を挙げますよと言っているわけですね。</p> <p>これで理解は宜しいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員	<p>前回の第1回再編委員会のときに、存続したい理由という話があったと思います。それはPTAや地区全体的な、個人的な意見ではなく、どういう意見で学校を残したいのかというのがあったと思います。それは準備できましたか。</p>
委員	<p>いいえ。期間もありませんでしたので、そこまで詳しい話はしませんでした。意見交換会を大きく開かないと各保護者の意見も聞けません。それからアンケートをしたときに、どの人が存続か統合かというのがわからないので。</p> <p>今までの話の中ですと、こういう話し合いの時に手を挙げておっしゃっている方は、ほとんど存続したい方が多かったです。こういう意見交換会などで意見を言う人と、ただ聞いている方がいると思いますが、意見を言わない方でも統合した方が良いと思っている方もいらっしゃいましたし、あの方がこういう意見というのは手を挙げていただかないと分からない部分です。アンケートを基にという説明は、PTAの中で話させていただきました</p> <p>昨年度、それまで色々な話をされていて、正直アンケート2となっていますが、この前年にやった結果は50%ずつでした。その時、私はPTA本部をやっていませんので、一保護者としてアンケートをしました。その時に、本当は数字が分かればどちらかに決めたのかなと思いましたが、一回目は本当に50%ずつで決められませんでした。</p> <p>そこで決めるという決定がありませんでしたので、翌年7月に意見交換会を行いました。その時に初めて小規模特認校という話が出てきました。それが何かという説明にかなりの時間もかけて、その後、PTA本部でどのようなものかと、牛久市の奥野小がやっていて、こういう制度というのが分かりまして。そういう経緯がなければ統合する流れだったかもしれません。ただ、そのときに保護者の方も、こういう制度があるならやってみて、それで人が増えなかったら諦めではないですが、やることをやって自分の中で納得したいという意見がありました。</p> <p>その後、本部の方でこういう話があるならアンケートの中に、存続するにあたって小規模特認校という制度があると、これを実際に出来るかはわかりませんが、この制度をやっていかうと話しまして、アンケートをした結果が今回ものです。</p> <p>アンケートの結果を見て、色々それまでの経過も分かりました。ただ、この再編検討委員会を開くにあたって、前回の諮問もそうでしたが、君原小を存続させたい理由というのが誰も理解できていないんです。結局前回も、どうして君原小を残したいのかという、委員も今年から会長なので難しいとは思いますが、その時の君原小を存</p>

	<p>続させたい理由というのが明確にわかっているならば、皆さん納得して終わっていると思うんです。けれどもそこが、どうして君原小を残したいのかという明確な理由が何もないので、だから皆さん何のための会なのかと。前回の話に戻ってしまいますが、そうになってしまうんです。ですからその答えも今日は欲しかったです。</p> <p>前はそれから始まっていたよね。アンケートの割合でそういう話があって、内容が準備できていなかったというのがあって、じゃあそもそも君原小を残したい理由というのは何かという話を。私もすごく覚えていますが、そこがしっかりと伝わらないと。</p> <p>私個人の意見ですが、君原小が存続するのは構いませんし、小規模特認校を使ってもいいと思います。けれどもそれなりに、君原小を残したいという理由が伝わってこないんです。ただアンケートを採りました、多数決で、それだけだと、たぶんこの会の皆さんは納得できないと思うんです。前回も他の方から、存続しても構わないという話もあったと思います。けれどもなんでこれだけ質問が出るのかというのは、君原小を残したいという大きな柱がないんです。</p>
委員	<p>今、君原小をなぜ残したいのかという話がありました。一番最初のアンケートの言葉どおりです。残したいという気持ちがこのアンケートに出ていると思います。自然が美しい、そして一人一人を大切にしてくれる、目が届く、心が届く、手が届く。本当に一番最初に書いてあるとおりでと思うんです。少人数で不安があったけれども学校で過ごす様子を見ると、一人一人細やかな指導、家族のような上下関係のつながり、何より先生方がとても大らかで温かい目で子どもたちを見守ってくださり、少人数小学校が好きになりましたと。PTAの方たちはみんなそういう思いなんです。先生方がみんな子どもたちを見てくれる。一人一人がとても大切な仕事を受け持って、一人一人の存在がとても大切。それはPTA、保護者の方が一番思っていることです。</p>
委員	<p>すみません、そのことは皆さん読みましたので、そこは分かっていると思います。</p>
委員	<p>それが一番じゃないですか、なぜ残すのかと。</p>
委員	<p>みんなそう思っているとおっしゃいますが、反対の人もいるんです。</p>
委員	<p>それは100%全てということとはできません。</p>
委員	<p>ですから、みんながそうだとおっしゃる意見はおかしいです。みんなではないんです。</p>
委員	<p>それはどれでも、何でも同じだと思います。100%全てそちらに向かうというのは</p>

	無理なことだと思います。今の話も、全ての方が達したような意見を持っていますので、100%を求めるのは無理だと思います。
委員	おかしいと思うのは、君原のお二人が基本統合はなしという方向でこの場に出ているらっしゃるので。
委員	それは存続する方向ですから。
委員	君原の反対意見が聞こえてこないんです。君原の中にも反対意見はあるんですよ。
委員	反対意見はありますよ。その反対意見を聞く必要はないじゃないですか。今、存続に向かって行くわけですから。
委員	それがおかしいんです。反対意見があるから、反対意見も聞き入れなくては、我々は存続という方向に判を押せないわけです。みんなの意見をちゃんと聞いたうえで本当に統合は出来ないと、存続するべきなのかというところを判断したいんです。それなのに存続ありきで話があるのであれば、我々はこれをやる意味がないんです。
委員	以前は統廃合ありきで進んでいたのではないですか。
委員	それは町長が。
委員	よろしいですか。私は議会の民生教育委員会をやっています、先般、君原小を視察に行ってきました。民生教育委員会6名と、事務局として役場の方も行ってくださいました。ここで聞いているだけではわからないので、以前から小規模校を一回見ようという話がありましたが、驚きました。きめ細かい、10人くらいしかいないところを一人の先生が見ていますから、それが良いか悪いかは、色々と競争性がない等という話がそこにあるかもしれないですが非常にいい学校だと。とにかくクラスが温かい。もう一つ驚いたのは、特別支援クラスの子も一緒に教室にいるんです。その子についてはいけない部分があって特別支援クラスにいますが、ついたてを作って、その子が耐えられなくなるとそこに行くんです。教室の中で一人でそこに行く。そこに先生が行って話をして、そうすると落ち着いてまた戻ってくるんです。そういう風に、校長先生も子どもが沢山いる学校ではなかなか出来ないと言っていました、まさしくその通りだと思うんです。そういう意味では非常にいい視察をしたと、いい学校だと思っています。
	先ほどから賛成反対という意見がありますが、検討委員会の代表としてPTA会長が出ているわけです。前にも言いましたが区長さんも集まって、色々な中で存続しよう

	<p>と決めたわけですよね、君原地区の検討委員会では。そうすると、反対の人の意見も聞きたいと言いますけれど、それはここで聞くのではなくて、検討委員会が既に聞いていたと、賛成の意見も反対の意見も。それで検討委員会の委員長が存続という意見をここに持ってきた。そういう解釈でいいと思うんです。</p> <p>5年生の保護者の意見の中に、「父兄・地域の支援を受けて君原小を存続させるのは理想。今この環境で成長させたいと思っている」とあります。こういうことを思っている人が、再編計画のことで前にも言いましたが、概要版の表紙に載っている「豊かな自然環境に生まれ培われてきた町の風土・歴史・伝統を踏まえるとともに、保護者、地域住民、学校、教育委員会が協議して合意形成を図りながら、次代を担う子どもたちの生きる力を育てる」と。これが学校の教育とここで言っているんです。それをまさしく君原小はやろうとしているんじゃないかと思うんです。</p> <p>私は小規模特認校を認めることは賛成です。ただ、阿見町で初めてのことをやるわけですから、地域は大変です。阿見町で最初のことをやって、成功・失敗は何年か後には出てくるわけですから、それだけのリスクも君原小には背負ってもらうと。教育委員会も認めたからにはちゃんと君原小をバックアップして、それなりのことをしてもらうと。誰かが言っていましたが、何年か後、それでも増えなかったら統合も考えるしかないでしょうと。それは当然だと思っんです。実毅小や吉原小はやっているわけですから。そう考えたら認めて、地元と教育委員会には頑張ってもらおうと。私はそれが一番いいことだと思っています。</p>
委員	<p>今、委員がおっしゃられた結論を出す前に委員がおっしゃりたいのは、確かに存続することの良さというのがあります。今おっしゃられたように、郷土愛や地元の文化やコミュニケーションとか、いろんな意見はその通りだと思います。ただ、君原小の来年を見ると1年生が3人ですよ。こういう小規模校の教育の質や効果は教育現場から見たときに、今日、校長先生もいらっしゃっているので、小規模校の子どもたちへの弊害というか、デメリットがあれば教えていただきたいです。小規模校や複式学級でもそれはあると思います。そうじゃない学校との教育の差異というか、もちろん同じ教育をしているのでしょけれども、現場サイドから意見があればお聞かせいただけないでしょうか。</p>
委員	<p>小規模でも、いわゆる標準という規模でも、メリット・デメリットはそれぞれあるというのが現場の意見です。統合して良いことがなにもないというのは少し不当かなと思っながら聞いていました。中学校の立場で言うと、一つは部活動なんていうのはある程度人数がなければチームが組めないわけです。現在でも、小さな中学校では野球が一つの学校でチームを組めないの、統合して試合に出ているところもあります。あとは小学校の時にバレーをやっていたけれども、中学校には部活がないということもあります。学校規模によって先生の数も決まってくるので、当然設置できる部活の数も変わってきます。</p>

あとは人間関係の固定化という側面もあるかと思います。一つトラブルがあって、小学校の小さな学年の時にあれば、それが変わらずに同じクラスですずっと持ち上がってきて、おそらく中学校に入ってもその遺恨が生じてしまいます。複数学級があればそれを調整できる。やっぱり競争論理もそうですけれど、いつまでもそういう中で生きていくわけではありませんので、成長していく中で、大きな集団の経験が必ず必要になります。そういった大きな社会の中でしか学ぶことが出来ないことは、私たちからは教えられないものです。いろんな子どもと触れ合う中で、初めて学ぶことも沢山あって、それがあから適正規模という言い方をしたのではないかと思います。私の中でもメリット・デメリットはそういうところです。

もちろん、小さな学校にも大きなメリットが、先ほど挙げたように沢山あると思います。奥野小の校長先生とお話する機会があり、特認校を設置すると色々な子どもが来るわけですが、大きく分けて二つの理由があるそうです。一つは、今行く学校にいられない。何か課題や問題があってそこに行くのが嫌で、それで来る子。もう一つは奥野小の持っている英語教育という特色に惹かれて、この学校でそれをやるならと来る子。特色軸がしっかりしていない子どもがたくさん集まれば、おそらくうまくいかないだろうと。今、奥野小ではこの英語教育に惹かれて集まってきているので、よくまわっているし人も沢山増えてきている。そういう意味では先ほど、残す理由という話が出ていましたが、特色として君原小が他にない、何を売りに出すのかというのが、私は極めて大きいのかと思います。その辺が明確になって入れれば良い教育ができるし、色々な人が聞いて納得する案になるのかなと。特認校ですので、何が特色なのかというところは大事だと思います。

委員長

ありがとうございます。小学校の意見もいただければ。

委員

人数が少ないときめ細かい指導はもちろんできますが、例えば体育の授業でバスケットボールをやろうとすると、5対5で最低10人は必要です。そういう人数が必要な時は困るケースがあります。あとは今、文科省が求めている対話的で深い学びを実現するためには、やはり人数が沢山いて、多種多様な考え方が授業の中で話し合いによっていろいろもまれて、作り上げていくというのが今求められている授業です。そうすると、人数が少ないとそれだけ多様な考え方が出ないということはあるかと考えられます。もちろん一概には言えない部分ですので、人数が多い少ないでは測れないかもしれません。あとはやはり、中1ギャップという問題があります。小学校から中学校へ進学したときに、中学校の文化に慣れるのにすごく大きな壁があります。大きな学校から行くと友達も沢山いるので、仲間意識も強く、そんなに環境の変化を感じない部分がありますが、人数が少ないとどうしても大きな集団に入ったときに委縮してしまう、慣れるのにとっても時間がかかって負担を感じるというのは中学校の現場であると聞いています。

私の前任校は石岡市の小規模校でした。常に統合の話が出ていて、メリットとデメ

	<p>リットをずっと考えていました。天秤にかけるのですが、最後の最後まで結論は出ません。メリットもデメリットもどちらもあります。ですから、特認校という制度を使うのであれば、君原小ならではの特色を真剣に考えて、どういう特色を出せば学区外からも子どもが魅力を感じて来るのかということ、そこに視点を当てるのが今大切なのかなと感じています。</p>
委員 長	<p>ありがとうございます。</p>
委 員	<p>特色やポリシーを作るのは教育委員会ですか。どこが作るのですか。特色を出すという考えや構想は。</p>
事 務 局	<p>小規模特認校の特色は教育委員会、学校、地域の皆様との協議の中で三位一体となって、三者の協議の中で作り上げていくものだと考えています。</p>
委 員	<p>先ほど中学校の先生のお話をお聞きしましたが、先生は阿見中ですよ。</p>
委 員	<p>はい。</p>
委 員	<p>私たち君原小は竹来中です。竹来中に進学して、昨年、一昨年と入ったときの学力は1、2、3位と君原小の児童でした。やはり一人一人を丁寧に真剣に、基礎基本をしっかりとしていることが、おのずと分かるのではないかと思います。それから中学校のギャップですが、中学校側も大変考慮をしていただいて、例えば6クラスあるときに君原から6人進学したとすれば、一クラスに6人入れるといったようにして、一人ずつ6クラスになるようにせず、集団としてまとまるように。ですから大人が考えるよりも子どもの順応性というのはとても高いです。私の孫も中学生にいますが、特に変わった様子はなさそうな感じで元気に通っています。</p>
委員 長	<p>皆様から色々ご意見を出していただきました。前回も色々なご意見が出まして、事務局でお手元の資料も沢山用意してくださっているようです。いかがでしょうか。前回の質問に対して事務局が用意された資料がありますので、こちらをご説明いただいて、それで総合的に皆様からご意見を伺うということで宜しいでしょうか。</p>
委員 一同	<p>はい。</p>
委員 長	<p>では事務局より資料の説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>それでは事務局から、本日お配りした資料の説明をいたします。まず配付資料の確認です。次第、〔資料 1〕君原小学校の学校再編に関するアンケート集計結果 2、〔資</p>

料 2] 君原小学校児童数推移、〔資料 3〕 奥野小学校の概要について、〔資料 4〕 茨城県内の小規模特認校設置状況、〔資料 5〕 学校再編検討委員会資料、そして令和元年度第 1 回阿見町立学校再編検討委員会議事録の計 7 部です。

ご紹介した資料は、第 1 回再編委員会で委員の皆様から提供を求められた内容をお示しするものです。それでは資料の説明に移ります。なお、〔資料 1〕 については、先ほど委員からご説明をいただいています。

まず〔資料 2〕 君原小学校児童数推移をご覧ください。この資料は君原地区の児童及び未就学児が全員君原小に就学した場合の見込み数となります。令和 2 年度に入学する小 1 児童が 3 人と、表の中で最も少ない学年となります。令和元年度現在の小 3 児童 8 人の内 1 人が転出のため、令和 2 年度は小 4 が 7 人となります。これに伴い、令和 2 年度は小 3 と小 4 が複式学級になり、複数の学年の児童が同じクラスで授業を受けることになる見込みです。この複式学級は、二学年の人数が小 1 児童を含む場合は 8 人以下、それ以外は 16 人以下になった場合になります。令和 3 年以降については複式学級が 2 クラス生じる年度がある見込みです。

次に〔資料 3〕 奥野小学校の概要についてご覧ください。奥野小は平成 28 年度に小規模特認校制度を試行し、翌 29 年度から実施開始をしています。英語教育、国際理解教育を学校の特色としています、年度別の全児童数及び内数として特認校利用者数を記載しています。28 年度から児童数が徐々に増加し、30 年度、令和元年度には 10 人を超える児童が特認校制を利用して入学しています。

次に〔資料 4〕 茨城県内の小規模特認校設置状況をご覧ください。県内の小規模特認校設置状況については、現在の再編計画を審議した平成 25、26 年度に実施していたのは、水戸市の国田義務教育学校と日立市の中里小・中学校のみで、他は 29、30 年度に実施しています。これらの学校の令和元年 5 月 1 日時点での特認校利用者数を記載しています。この中で奥野小が全児童数・特認校制度利用者数ともに最も多くなっています。

最後に〔資料 5〕 学校再編検討委員会資料をご覧ください。この資料については、第 1 回再編検討委員会で委員の皆様から原案を出してほしいとの意見があったため、事務局よりご提案させていただくものです。これまでの経緯の説明と諮問内容、見直し案を記載しています。これらは君原地区からの要望に沿った形で見直す案となっており、前回配付した阿見町立学校再編計画概要版の内容を修正するものとなっています。

まず、1. これまでの学校再編の流れについて申し上げます。平成 25、26 年度の 2 年間、阿見町立学校再編検討委員会を開催し、27 年 3 月に答申を受け、阿見町立学校再編計画案を教育委員会で審議の上、可決しました。この再編計画に基づき、平成 30 年 3 月に実穀小が本郷小に、吉原小が阿見小に統合し、同年 4 月にあさひ小が開校となりました。

次に、2. 君原小学校地区との協議経緯について申し上げます。阿見町立学校再編計画に基づき、君原小と舟島小との統合のため、これまでご覧のような協議を重ねてき

ました。検討委員会を2回、保護者説明会を2回、意見交換会を5回、区長説明会を1回開催してきましたが、統合に向けた合意形成には至りませんでした。

このような状況の中、令和元年5月に君原小検討委員会から要望書が提出されました。この要望書については、3. 今回の諮問に至る経緯に記載のとおり、君原小検討委員会から君原地区8行政区の総意として君原小を存続する方向が示され、その方法の一つとして小規模特認校の導入を考えているとの内容です。これを受け、令和元年11月5日に本委員会へ諮問を行ったところです。

裏面の4. 具体的な諮問内容をご覧ください。前回の委員会で諮問内容が分かりにくいとの話がありましたので、具体的な内容について申し上げます。

4. 具体的な諮問内容として(1)阿見町立の小学校及び中学校の再編計画の見直しに関することについては、再編計画の具体的な見直しとして、君原地区からの要望を受け、地域の実情を踏まえて君原小を存続する再編計画の見直しについてです。また、

(2)阿見町立学校再編計画見直しに係る具体的な方策に関することについては、得体的な方策内容として、再編計画に小規模特認校制度を盛り込み、君原小を小規模特認校とすることについてご検討いただくように諮問しました。

次に5.見直し(案)についてご覧ください。箇条書きにまとめています。阿見町立学校再編計画本編及び概要版について、下記のとおり修正する。

- ・概要版2ページの(2)望ましい学校規模について、小学校の望ましい学校規模に「ただし、小規模特認校を除く」を追記する。本編は30ページです。
- ・概要版3ページに(4)小規模特認校について、を加え、その取扱いについても追記する。本編は31ページです。
- ・概要版4ページの(1)再編実施方針について、統合校から君原小を削除し6校に再編とし、君原小を小規模特認校とする、を追記するとともに計画図面を修正する。本編は32ページです。

これが見直し案のまとめです。

次に概要版2ページと書かれた資料をご覧ください。この案は、前回配付した阿見町立学校再編計画概要版に、3ページ分の網掛けとなっている文言を追記する内容となっています。

まず3.再編の基本方針の(2)望ましい学校規模の①小学校に、「ただし、小規模特認校を除く」を追記します。これにより小学校の望ましい学校規模自体は残したまま、小規模特認校は除外されることとなります。

次に裏面の概要版3ページと書かれた資料の末尾に「(4)小規模特認校について」を新たに項目として追加し、「君原小地区からの要望を踏まえ、君原小に学校選択制の一つである小規模特認校制度を導入し、少人数での教育の良さを活かしたきめ細かな指導や特色ある教育を行います。多様な学習環境を提供することの有効性、必要性を鑑み、より良い教育環境づくりを進めるため、町内全域から児童を受け入れます。」と記載します。これにより君原地区からの要望を受けて、君原小を小規模特認校とする方針を再編計画に加えることとなります。

	<p>最後に概要版 4 ページをご覧ください。4.再編計画（1）再編実施方針①児童数の将来推計、通学等を考慮した具体的な適正配置より、統合対象校から君原小を除き、5校に再編を6校に再編へ改め、「君原小を小規模特認校とする」を追加します。これに合わせて図面も修正し、再編後の小学校数を6校に改めます。</p> <p>以上、見直し案を提案させていただきますので、ご審議をお願い致します。</p>
委員 長	<p>ありがとうございました。前回皆様から、諮問内容についてももう少し分かりやすくという意見が出ていたと思います。具体的に事務局で諮問した内容について資料を整えて説明をしていただきました。資料の内容を含めて、皆様からご意見をいただきたいと思います。</p>
委 員	<p>今、この委員会の結論的なものを事務局がまとめていただいたわけですが、タイミング的に今ここで検討するのは、委員皆さんの意見が出尽くしたからという理解なのかはわかりませんが、教育委員会でも一つの案のたたき台を出すと。では、ここにいる委員の皆さんは何のためにここに来ているのかなと、こういう不満は残ると思います。皆さんの意見が出尽くしたところでまとめて、例えば賛成・反対という意見を取りまとめてから今の案を出されるのであれば手順に沿っていると思いますが、いきなりポンと出されて。</p> <p>結論的なものに賛成・反対ということではなくて、手順がどうなのかなという想いは若干します。ですが、事務局の皆さんは大変ご苦労様でした。このような案を作ってください。</p>
事 務 局	<p>ありがとうございます。前回、長時間にわたるご審議をいただきました。前回の終盤の方で、私からも諮問内容を繰り返し皆様にご説明した中で、再編計画を見直さないと小規模特認校について進められないとのご説明をした際に、では再編計画に案として、実際にどのように書いてあったらいいのかとのご指摘がありました。それを出していただければ、委員でもむ方が方向性として早いと思うので、逆に案を出してもらって、それについて賛成反対と進めたらいかがでしょうかとのご意見がありました。それを踏まえて提案をさせていただきました。あくまでも諮問内容自体が分かりにくいとのご意見が前回多かったものですから、具体的に分かりやすくさせていただきました。</p>
委 員	<p>ついでに質問ですが、今度第二小もこちらで意見を出すわけですね。別途の機会に。そうするとまた見直しをこの場をもって決めるのですか。</p>
事 務 局	<p>前回の第二小の話でも出たかと思いますが、ここは君原小の問題を議題として諮問をして、お集まりいただいています。ですから現段階で第二小のことを議題とすることは差し控えたいと思いますが、当然、何らかのことがあって、第二小だけではなく</p>

委員	<p>何か問題があってこの再編検討委員会に諮問しなければならない議題があったときには、当然諮問をさせていただきます。</p> <p>これは結構な内容変更ですよ。吉原小と実穀小と第二小にとって、君原小を統合予定校から除くという文言は、この3校にとってはものすごく大きいんです。分かりますか。この委員会だけでこれを決めていいのでしょうか。申し訳ないですが、私たち第二小は統合していないので、こういう意見があるとちょっと。なんだこれはとなると思いますよ、第二小の件が。</p> <p>実穀と吉原に関しても今更になるかもしれませんが、ちゃんとこういうのはあのおとき問題があって見直したんですというような説明会をしないと、いざ変えられてなんだこれとは、絶対なると思います。その辺の考えは何かあるのですか。</p>
事務局	<p>今回のご提案は再編計画自体を変更するものではありません。再編計画自体は生きています。あくまでも先ほどの提案で説明があったように、君原小のことを追記させていただくということで、なおかつ君原小については小規模特認校ということが決まったあかつきには、教育委員会として8行政区ありますので、地区に下りて行って説明会等をしていきたいと考えています。</p>
委員	<p>待ってください。ですから案としてはわかりますが、統合した実穀小、吉原小、第二小の住民に理解が得られるのかどうかを聞いているんです。そういう説明会等を考えてくれているのか、これで決まってしまったからそれでいいということなのか。たぶんその当時一生懸命意見を出してくれた方は、小学校は関係ないわけです。平成27年当時は小規模特認校というものは分かりませんでしたと言っていました。今更言われて困ってしまうかもしれませんが、実穀小も吉原小もまた始めさせてというのはないと思いますが、それなりに納得させられるのでしょうか、この案で押し通すのでしたら。案のまま、この冊子に入れたいのでしょうか。住民説明会とかをしてほしいのですが、色々大変でしょうけれど、住民の納得を得て再編計画や学校の統廃合を考えているわけですから、そういうのもあってもいいと思うんです。そういうのがなく、ないがしろにして、そのままこの会だけでOKと決めるのであれば、他の住民が納得しないと思います。</p>
事務局	<p>実穀小、吉原小は再編計画に基づいてすでに廃校となっています。これは計画の5ページ②児童数の将来推計から想定する再編実施時期をご覧いただきたいと思いますが、先ほどもご説明したところですが、合意形成が図られ次第、統合準備委員会を組織してとあります。あくまでも、まずは検討委員会を組織し、保護者、地域住民、教育委員会等と統合に向けた協議を行います。それで合意が図られたので統合準備委員会となって廃校になったという理解で進んでいますので、その辺は地域の皆様の合意形成が図られて廃校になっているとご理解いただけていると考えています。</p>

<p>委員</p>	<p>たしかにご指摘いただいたような問題というのものもあるかと思えます。ただ、再編計画の見直しが決まったとすれば、当然、町民の方々の代表である議会にきちんと報告して、実施して参りたいと考えています。</p> <p>この案は、君原だけは特別に扱いますよということありきですよ。それがもう大部分の人を納得させられない理由だと思えます。単に小規模特認校を認めますよという内容であればわかるのですが、その上で君原を特認校として認めますよという内容だと、我々は正直同意しかねるところがあります。そもそも、この再編計画の2番にある住民意向のまとめというのが、今聞いている話の内容と違うんです。基本的には概ね統廃合には賛成という内容が書いてあるのですが、少なくとも君原小も第二小もそんなことはない状況ですので、そもそもここら辺が作られた内容なのではないかというのが一つあります。</p> <p>合意がなされていなければ統廃合はしないという話であれば、君原小が将来的に合意して統廃合する可能性もあるわけです。そういう意味では、この適正配置の絵は変えずに特認校を認めて、特認校として良好な環境を保てる状況があるのであれば、継続を認めますという内容にすべきだと思います。そういう意味では第二小が残るといような可能性も含めてここに残しておいて、その統廃合の途中段階にありますので、将来的に統廃合の可能性はあるわけですよ。実際に特認校としてうまく回らなかったという状況になれば、統廃合せざるを得ないと思いますので、この形になると思うんです。ですので、この絵は変えずに特認校だけを認めるという内容であれば分かるのですが、君原小が特認校として継続することが大前提の計画では合意しかねます。</p>
<p>事務局</p>	<p>たしかにおっしゃるとおりかと思えます。教育委員会としても率直に申し上げて小規模特認校を始めて、果たしてどれだけ他の地区から入学されるお子様がいるのか、たしかに不安な点、見えない点、予測できない点は多々あります。今回、君原小のことを提案させていただいて、適正配置の計画からも統廃合の対象校から削除ということをご提案申し上げているわけですが、たしかにご指摘のように仮に将来、他地区から募集しても集まらない、最終的に学校が望ましくないということになれば、当然再度こういった検討委員会に諮問させていただいて、その時は統廃合の対象とすることは教育委員会としてもやぶさかではありませんので、ご理解をいただきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の話の時には、この再編計画の冊子の中に小規模特認校を入れてほしいという話だけでした。それをここまで大規模に、いくら案とはいえ変えられてしまうと、先ほど君原小の存続も小規模特認校も私個人としては良いですと言いましたが、ここまで変えられてしまうと私としてはOKは出せません。前回お話のあったように、先ほど委員もおっしゃっていましたが、阿見町として小規模特認校を認めるという文言</p>

	<p>だけでしたら構わないと思います。ですが、結局君原小を除いて6校に再編するという文言まで入れてしまっていますので、そうなっては完全に前回言っていた話と変わってしまっています。先ほどの話と重複してしまっていますが、もう少し考えてもらいたいです。</p>
事務局	<p>たしかにお話も一理あるかと思います。ただ、繰り返しになりますがこの再編計画には小規模特認校という文言がありません。それを入れたいということは前回もお話ししたとおりで、基本的なスタンスは変わりません。ですが、そうなった場合に小規模特認校はどこにするのかというところがまた出てまいりますので、今回君原小から要望が出てまいりましたので入れさせていただいたものです。そうでないと、実際、小規模特認校をどこにするんだと、それを教育委員会だけで決めていいのかということになります。あくまでもこの再編計画に位置づけさせていただいて、それを教育委員会で実施していきたいということです。</p>
委員	<p>小規模特認校は町内に1校しか設置できないのですか。</p>
事務局	<p>〔資料4〕をご覧くださいと思います。水戸市は小学校3校に義務教育学校1校ということで、1市町村に1校しか設置できないという決まりはありません。</p>
委員	<p>それでしたら、君原小だけは特別という形にしてしまうとその他の学校からおかしいという意見が出るとと思いますので、君原小だけは特別という形にはしてほしくはないです。小規模特認校を認めますという文言であればわかりますが、君原小は特別に大丈夫ですというような形に見えてしまうと、反対意見が相当出るとと思いますので、それは正直合意しかねます。</p>
事務局	<p>今回の発端となっているのは君原からの要望書です。これは8行政区の総意ということで教育委員会宛に要望が出ているわけです。極端なことですが、一部の方や特定の方からの要望を受けて、強い意見があったのでこうしようということではありません。あくまでも君原地区8行政区の総意という重みを踏まえて今回の諮問をしていることをご理解いただきたいと思います。</p>
委員	<p>委員からこうして何度も意見が挙がるというのは、この決定の主体性が教育委員会に感じられないからなんです。君原が言ってきたから認めますと。どこかが言って来たらまた認めますとなってしまいます。君原が小規模特認校制度にふさわしい学校なのか。君原小が小規模特認校を採用するというのはお聞きしました。ではどういう特認校にしたいのかというのが大事なんです。特認校のポリシーがないんです。このまま君原小は特認校としてOKですというのが町なのでしょうけれど、我々はどういう学校にするんだというのを何も聞かずに、じゃあそれはいいねという判断をここの委</p>

事務局	<p>員皆さんに聞かせていただいて、この委員会で答申させていただくのであれば非常にいいと思いますが、特認校は OK です、どんな特認校にするのですか、今から決めますでは。今から決めるものに OK を出すというのは、そういう手順が逆転していますから、だからこういう意見が出てしまうんです。</p> <p>先日、奥野小に私も行って視察をしてまいりました。その時にいただいた資料を参考のためにここで配付をさせていただきますので、ご覧いただきたいと思います。</p> <p>(奥野小資料配布)</p>
委員	<p>少しよろしいですか。先ほどの委員のお話の続きですが、結局君原小が存続して、先ほどの教育理念のようなものが決まるのは、ここで OK を出してからでないといけないことなのではないでしょうか。それともそちらを先に決めてもらってから、こちらを開くということは出来ないのでしょうか。</p>
事務局	<p>前回も、この再編計画に関係なく小規模特認校をやってはどうかとの意見があったと思います。ただ、阿見町はこの学校再編計画を作り、これに基づいて小学校の配置計画を定めていますので、この計画をないがしろにして進められないという立場にいます。それはご理解をいただきたいと思います。極端な話ですが、市町村によってはこういった再編計画自体のない市町村の方がむしろ多いです。統廃合を進める際に、こういった計画を作っていないです。そうするとおっしゃっているように、本当に教育委員会だけで、学校と地域と相談して決めていくことが現実にも他市町村では行われています。ただ、阿見町は本当に丁寧にこういった再編計画を 2 年間かけて策定していただいたわけですので、これをないがしろにすることはできません。そのため今回諮問をした次第です。</p>
委員	<p>君原地区は駐在所がなくなり、農協がなくなり、そして学校がなくなるとなるとは、本当に若い人が来なくなります。疲弊化して消滅地区になるかもしれません。子どもたちの人数を見ても、早急に施策を打ち出す必要性があるんじゃないかと思います。再編計画に今まで合意しなかったという点では、君原は一貫してどちらかに決められなかった。ですが、実穀小や吉原小は決めてこのようになったと。じゃあ私たちも決めなければならないというところから、もう一度アンケートを採りましょうと、保護者と児童はとりました。私は自分の君原小地区の世帯数 708 戸、人口 1,856 人、半分でも 928 人、その半分の同意としても 464 人。その方たちの代表としてここにいるわけですので、私一人ではなく 400 何十人分の重みを背負ってやっています。区長さんを集めて話し合い、後援会会員の役員を集めて話し合い、君原小がどんな風にして残っていくのか。一番のネックはやっぱり人数だろうと。人数を多くするためにはどうしたらいいのか。奥野小で小規模特認校という制度を利用して増やしているよ</p>

と。そういうところから特認校をやってみようと、そういうことになりました。保護者、PTA、みんなの意見から存続しようと。でもネックとして少人数ということなので、人数を増やすための施策として特認校という案が浮かび上がったんです。

ですから、この色々な話の中で文言が何かという、そういう論題ではないんです。本題は何か。特認校として君原小が出発するかどうか、それを皆さんにお諮りしたいということなんです。再編計画の4ページを見てください。阿見町の上の方には小中学校がありますが、半分以上が、吉原、君原がなくなったら均衡が崩れると思いませんか。本当はないんです。だからやはり、新しい施策をとっていくということを皆さんに支援していただきたいと思うんです。

私は茨城県にどのくらい学校があるか調べてみました。茨城県には小学校が476校あります。そのうち100人以下の学校は73校ありました。その73校の中にも、北茨城市は14人の石岡小、桜川市では猿田小が27人、ひたちなか市の枝川小は20人、日立市は中里小22人、東小沢小26人、山部小29人と大変少ないです。その学校の先生にお聞きしました。今、自治体から統合などの話は言われていないと言っていました。それで頑張っている学校もあるんです。素晴らしいなと思っています。

町全体としては10年より人口も863人増えているし、世帯数も2,837戸も増えています。でも君原は400人も減っているんです。これ以上減ったら本当に、消滅区域になってしまうんじゃないかと思ってしまうんです。ですから住民が、皆さんに来ていただいて、そして学校を盛り上げて地域を活性化しようと、そういう意気込みなんです。

皆さんには承認していただいて、小規模特認校でやってみたらいいんじゃないかと後押しをしていただきたいと思っています。その承認を得れば、今吉原小の子が阿見小に通っていますが、もし君原小が特認校になれば、僕は私は君原小に行くよという方もいらっしゃると思います。また、吉原のアウトレットに今沢山の家が建っています。よく見ていくと自転車があったり、ベビーカーがあったり、若い人が沢山住み始めています。そういう方たちが君原に向いて、阿見小に行くなら君原小の方が近いし、同じような環境でいいんじゃないかと、そんな風に思っている方もいらっしゃると思うんです。ですから私は、増えていくのではないかと期待しています。

小学校の先生に、特認校になったらどんな風にしたいのですかと聞きました。英語教育というところでもやっています。じゃあこの素晴らしい環境を活かした、何かそういう学校にしたらいいいのではないかなと校長先生もおっしゃっていました。地域の郷土文化組合の方が、一か月に1回、各学校に行って芸能を教えていると。それから地域の方が朝早く行って、紙芝居や朗読をしてあげるとか。やっぱり地域に根差している、そういう所も盛り上げていったらいいんじゃないですかとの話もありました。

この会がいつまでたっても、ここでああだ、こうだという意見が沢山出て、もちろん大きな学校の区長さんは自分の学校は安泰だと思っていられるから、あまり意識がないのかもしれませんが。でも、例えば吉原小が阿見小に行くとしたら、阿見小と吉原小は統合するならば阿見第四小学校と名前を変えて、児童の意識を平等にする、

	<p>そういう統合が理想的じゃないかと私は思うんです。あっちの方から来たといじめられていることがあると何回か聞いています。大きな学校が違う学校になってしまうとなったら、自分たちはどう思うのかと。そういう所で統合や廃校の意識問題が高まるのではないかと思います。大きな学校の方たちは、児童も保護者も何ということなく、あらそうなのというくらいで、今度どこからか来るのねという感じだと思うんです。地域の方の意識を、意欲を感じていただいて、君原小が活性化するために皆さんどうぞご支援をよろしくお願い致します。</p>
委員	<p>先ほど、ここで特認校を認めてから何かを決めるのか、何かを決めてからここで特認校を認めるのが筋じゃないかとの意見もありました。私はこの問題は、鶏が先か卵が先かと同じで全然意にしているませんが、もしもここで特認校を認めたら、教育委員会は何か考えているのですか。</p>
事務局	<p>まさに今この資料をお配りしたところですよ。奥野小を視察させていただいて、本当にうらやましい、素晴らしい学校だと思いました。内容をご覧いただくと、まさに特色ある教育、恵まれた自然環境を活かしてグローバルな人材育成を目指す奥野ということがわかります。本当に今、委員からお話がありましたが、この再編計画の見直しを認めていただいたあかつきには、ぜひ阿見町においても立派な小規模特認校を作り上げていきたいと、そういう想いを持っております。そういうことでご理解いただきたいと思っています。</p> <p>ですから、鶏が先かとの話がありましたが、この再編計画、これは大事な計画です。これをないがしろにして何か事を進めるとするのは我々教育委員会にはできませんので、再編計画の見直しをご承認いただければと思っています。</p>
委員	<p>奥野小の国際理解教育とか、それはわかります。ですがそれは学校として非常に大きな問題です。小規模特認校ではなくても、田舎の学校はこういうことをやらざるを得ないわけです。大きい学校と違うのですから。そう考えたら何かあるのでしょうか。例えば英語やパソコンなど。委員がおっしゃったように伝統芸能をやるとか。何を持っているのですかと聞いているんです。</p>
事務局	<p>再編の見直しがまだされていない段階ですので、少し先走ったことを言ってしまうて申し訳ありませんが、やはり英語教育、それからネット社会ですので ICT 教育。そういったものを中心に取組んでいければと考えています。</p>
委員	<p>本当にこれは鶏が先か卵が先かの問題ですので、それをここで認めなかったならば、なかなか先に進まないわけですよ、教育委員会として。腹案では、大きな意味で持っているとは思いますが、具体的にはなかなか持っていないと。この会議を何回やっても堂々巡りだと思うんです。ここに君原地区の方を集めるわけにはいかないの</p>

	<p>ですから。</p> <p>ですから最初に言いましたが、区長さんも、後援会も、PTA 役員も来て、そういうことで決めたことを私はこの委員会では尊重して、小規模特認校をとにかく認めると。その代わり地域はもちろんです、教育委員会も、先ほど誰かが言いましたが、失敗したらまた統合という話が出てくるでしょう。それは目に見えているのですから、そうならないようにそれだけの覚悟をもって、君原地区と教育委員会にやってもらうと。私はそういうことを要望と言いますか、条件とは言いませんけれどもこちらでつけて。そうじゃないといつまでやっても同じです。君原地区の皆の声を聴くわけにはいかないですから。</p> <p>どんな会議でも反対がいるのは当たり前です。100 対 0 なんてあり得ません。9 対 1 もないと思います。6 対 4 とか、64 対 36 とかで決まっていくんです。ただ、検討委員会の委員長が、その反対した人たちの想いをくみ取って、これからやっていると。責任は重いと思います。小規模特認校を決めたときの検討委員会の委員長ですから。その覚悟をもってやっていく。ただこの場では、教育委員会がそういうのならば認めるのが筋かと思います。</p>
委員	<p>私は基本的に小規模特認校反対派ではありません。ですが、今この場で我々が、君原小が将来的にずっと存続することを保証できる立場ではありません。小規模特認校をやってみて、人が増える方向性が見えて、そこで初めてこの統廃合を変えた方がいいんじゃないかという話になると思うんです。それを成功することありきで、君原小を存続させますという計画をここに認めろと言われても、認められないです。ですので、小規模特認校は認めますが、君原小が今後、ずっと存続することを認めることはできませんので、君原小が統合校として残っている絵を描くと言いますか、6 校に再編するという確定的な文言を載せることは反対です。基本的には、小規模特認校は認めます。でも君原小だけ残すという書き方をしたら、相当反対意見も出ますし責任も持てません。ですので、君原小うんぬんという文言は除いていただきたいです。</p> <p>数年間、小規模特認校を運用してみて、上手くいくようであれば続ければいい。その時点でもう一度この絵を書き換えるのであればわかります。そうじゃなくて今、ここで継続することを認めろと言われても認められません。というのが皆さんの意見だと思いますがいかがでしょうか。</p>
委員	<p>いろいろご意見があるのはもちろんだと思います。今、第二小の立場があるので言えないのですが、もう誰もが学校再編というのは分かっているんです。少ない所はどこでも。東京 23 区で学校を新しく建てるところはありません。みんな再編です。再編することはみんな分かっているんです。ただ、今、君原小や第二小みたいに、もうちょっと待って余裕をくださいと。今これをもっていかれたら、第二小はどんどん押し込まれます。だから何も君原小がこれで決まって残るということではなくて、失敗してどんどん減っていけば当然統合となります。これはしょうがないことです。い</p>

	<p>くら歴史があろうとなんだらうと。</p> <p>皆さんもそうだと思いますが、小学校がなくなるとやっぱりさみしいです。私は柴又で30年育ちましたが、帝釈天がありますけど帰りは必ず小学校まで2キロ歩いていきます。やっぱり昔を思い出して。やっぱり小学校というのは人生にとって歴史の積み重なったところなんです。でももう人が少なくて、日本中が統合をするのは当たり前でみんな分かっているんです。だから第二小の時も、最初は区長もしょうがないなど思っていたんです。ところがふたを開けてみて皆さんの気持ちを見ると、ふつふつと湧き出ているものがある。令和5年ではなく、第二小も少し増えているんじゃないか、まだ早いんじゃないかと。統合に反対ではないんです。ただ、先に延ばしてくれないかということで、今署名をやっています。それで8割がそうです。君原も同じで、いきなり一つしかない街灯を消されて真っ暗になってどうするのと、そういう感じもあるわけです。ましてやお年寄りはお年寄りの声が小学校で聞こえると、それだけでも楽しくなる。そういう子どもの声もなくなる。再編は、やる気があればどの町でもやるのは当たり前なんです。だから今はまだ特認校という札だけを与えて、それで見ましよう。これで未来永劫残るということではないです。少し時間を見て、とりあえずこれで行きましようということであれば、私は賛成です。</p>
委員	<p>今、この私たち再編検討委員会に問われているのは、小規模特認校を認めるか認めないかだと思えます。先ほどのなくなるとかはもちろん当然です。今認めたから永久に君原小が残るなんて話はないわけですから。ただ、ここで問われているのは小規模特認校を認めてくださいと出てきているわけですから、それを認めるか認めないかの結論を出せばいいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>私が今言った内容であれば認めます。それがずっと、特認校だからずっとなくなるといのはそうじゃないです。そうでないならいいんじゃないでしょうか。ましてや今、課題を与えられたわけです。これからなる学校の見本になって、君原小は素晴らしい、やっぱり児童が増えた、英語がすごいと、これは逆転の発想ですが、そこを期待します。</p>
委員	<p>私も特認校に反対するつもりはありません。先ほど委員がおっしゃったとおり、これを書き換えなければ特認校にならないのであれば、逆に反対するしかなくなってしまいます。あわてて書き直すのであればちょっと。</p>
委員	<p>ちょっと乱暴ですよね。</p>
委員	<p>これを全部書き換えて特認校にするのは、私たちには荷が重すぎるので。特認校だけ認めるということには出来ないのでしょうか。この内容を変えるのではなくて。</p>

事務局	<p>先ほどからもご説明しておりますが、この再編計画自体の見直しは今回提案していません。この計画は今回の提案の後もこの通りです。ここに今回、君原小の問題を追記することだけです。ですから再編計画にうたわれている、適正規模や一学年2学級以上といったことや、望ましい学校規模といった、それ自体を修正することはございません。もう一つ、君原小をただ存続するということを提案しているわけでもありません。あくまでも小規模特認校が大前提で、小規模特認校として君原小をここに入れ込む、追記するということを提案申し上げているわけです。</p>
委員	<p>今日いただいたこの案は、これ以上直すつもりはないということでしょうか。</p>
事務局	<p>いろいろと、小規模特認校だけなら理解できるという意見も頂戴しています。ただ、大変申し訳ありませんが役所的な見解としては、きちんと明記させていただきたいというところがあります。あるいは計画の中の一文だけ入れるということではなく、この計画書も色々と項目がありますが、整合性をとっていきたいというところがありますので、こういったご提案をしているわけです。内容としてはあくまで君原小を小規模特認校とすることに尽きるところです。</p>
委員長	<p>皆様から大分ご意見も出まして、理解が深まったと思われまます。どうでしょうか。事務局としては、今日出されたのは案として出されたわけですね。ですからただいまの意見を踏まえて、再度これを修正して、皆さんにご検討いただくという考えがあるのかどうか。時間も2時間経過しました。委員長としては、この提案に色々な意見が出ていますので、即ここで決を採るとするのは難しいと思います。事務局で何か次の提案ができるのでしたら、それをもって皆さんのご意見を伺うということもできると思いますが。</p>
教育長	<p>いずれの意見ももつともだなと考えさせていただきました。一つは委員からの、この委員会で決めなければならぬのかということについては、その通りだと思います。この計画は前回の再編検討委員会が作り、教育委員会に答申していただいたものです。それと同じように今回も諮問事項を提出して、皆さんに協議をしていただいたわけですので、この場で承認をいただければそれば結論になります。先ほど委員からもありましたが、腹案は沢山あります。ですが、ここでそれをお示しすると混乱も予想されるわけです。ですからこれは君原小、それから君原小検討委員会、そして教育委員会のこの三者で詰めて、近いうちに小規模特認校が承認されれば、広報あみあたりで大々的に中身はこういう取り組みですと、皆さんに見ていただくことができると思います。それを見て、なるほどと思ってくだされればいいですが、こんなことが足りないんじゃないかと思うことも、可能性としてはあるかもしれません。</p> <p>それから、委員がかなりこだわっていますが、役所としてはどの話もありましたが、最小限度の訂正です。整合性ということから考えて、このように直さないとなつ</p>

て文章を逆に読み違えるような間違いも出てくるのではないかと。私は最低限度の見直し案だと、言葉の使い道だろうと思っているわけです。

委員も、もっと言いたいことは沢山あると思いますが、このタイミングで特認校の提案をしてきたのは、子どもの数の問題があるからだろうと思います。できれば、存続ということを許可していただけるのであれば、認めていただけるのであれば、教育委員会も一生懸命やって、複式は出来るだけ避けたいと、そう考えています。ですから、それほどの猶予もありません。

奥野小の取り組みですが、小規模特認校としては失敗なんです。1年生も2年生も小規模ではなくなってしまっています。2クラスになってしまっています。5、6年生の入る教室がなくなってしまったことで、苦肉の策で牛久二中と抱き合わせで義務教育学校になるわけです。5、6年生は牛久二中に行くようなことを考えているわけです。

あとは第二小と君原小の違いは、第二小は説明に納得したわけです。そのあと色々な意見があったかもしれませんが、検討委員会は承諾をしたわけです。第二小検討委員会は、私が足らなかったのではないかと思うのは、納得した委員がそれをもっと下におろせばよかったんです。そうすれば今の動きのようなことにはならなかったのではないかと思うんです。検討委員会が地区の真意を把握しきれなかったのが事実だろうと思います。

ですが君原は、平成27年3月に結論が出て検討委員会が立ち上がりましたが、その後、検討委員会を決して開いてくれなかったんです。私が想像するに、検討委員会を開けば説得されてしまうと思ったのではないかと思います。でも教育委員会が何もしないということはできませんので、PTAの集まりに出向いて行ったり、意見交換会を10数回やっています。その中で総意として、私の方に君原から要望書が挙がってきたわけです。

前回、未就学児のアンケートとの話もありましたが、そのことは教育委員会も考えました。教育委員会にあの要望書が挙がってくる前の段階で、昨年度の意見交換会には教育委員会も出ているので、その中で未就学児はやっていないということが分かったものですから、教育委員会では未就学児にもアンケートをやるべきということで用意もしていました。いつでもできる、という所へ要望書が挙がってきたわけです。君原地区8行政区の総意として要望を出すということですので、更にアンケートを教育委員会がやるというのは大変失礼なことだと。そういうことで実際に作りましたが、取り下げました。そんな経過があります。ですから、行政マンの悪い習性とまでは思いませんが、色々な角度から整合性を鑑みて、このように直しておけば間違いないと。それについては大きい変更ではないと思いましたが、委員は大きい問題だと思っ

委員

思っています。

委員	私もかなり大きいことだと思っています。
委員	もしこれで変えるつもりがないのであれば、このままここで多数決を採って、それで決めてもらったらいんじゃないかと。
教育長	できればそういうことは避けたいと思っていますが、最終的にはそういうこともあるのかもしれませんが。この奥野小の例に、即、君原小がなるかというところがそうはならないと思います。色々と話が飛びますが、一番基本的なことは両方ともメリット・デメリットはあるんです。ですが、子どもにとってどちらがいいのかというのが一つの大きな選択肢の一つだと思います。その辺はよく考えていただければと思います。
委員	<p>今の教育長のお話を伺いましたが、ここで決を採るとするのは少し乱暴すぎると思います。私はどっちにも手を挙げられないです。なぜかと。小規模特認校制度というのはわかりました。それが一つの有効な方策というのもわかりました。ですが、君原小を特認校と結びつける材料が何もないんです。材料もなく、特認校として君原をはい賛成ですと、手を挙げさせてもらうだけの材料がないから手を挙げられないんです。特認校としてどういう学校にするのですか。校長先生がおっしゃられたように。</p> <p>もちろんカリキュラムのような細かいところまでは出来ないでしょうけれど、こういう所をやっていくんだ、それから特認校を維持していくための問題点はこんなところにあるんだと、それに対しての対策は実行可能なのかと。こういう大づかみのところについての話を伺えば、それならとなります。皆さんがおっしゃるように何年か後にはだめになるかも知りません。けれども特認校としてスタートする以上は、成功するという意思をもってやるわけじゃないですか。成功するかどうか分からないけどやってみるみたいなことではなくて、委員の言葉の迫力を聞いても、失敗なんてありえないというくらいの強い意気込みでやっているわけです。</p> <p>であるならば、我々が手を、それならば大丈夫だと安心できるような、大綱的な、大まかな、こういうセールスポイントとしてやっていくんだと、あるいは問題点はこういう所にあるんだと。これくらいのこと何もしないで君原小を特認校としてOKですと、手を挙げてくださいというのは乱暴すぎるんじゃないかという思いがするんです。私はどちらの意見にもグラグラと来ています。筋道が立っていればそれなりに良いと思いますが、先ほどの案をぶつけるとか、これでどうだ、はい賛成か反対かと。結局こういうことですね。それでもこのやり方なのでしたらそれも目をつぶりますが、せめて気持ちよく手を挙げさせてくれる材料をください。</p>
委員	先ほど皆さんがおっしゃったように卵が先かということで、でも特認校が決まったら、区長さんや皆さんをまた集めて、うちの地区にはこういうことがあると、地域全体で盛り上げなければならぬことですね。みんな一生懸命やってみようという気持ちで、今盛り上がるころなんです。だからやってみなければ分かりません。学

	<p>校をはい無くしましょう、廃校ですというのは簡単です。でも再建するのは大変です。でもやってみなければわかりません。だからやってみたらどうだと皆さんから後押しをしてもらうのが一番力になると思うんです。</p> <p>阿見町全体を見比べてみてください。あさひ小と君原小、同じ児童でも違います。あさひ小の保護者が、私たちはこんなに素晴らしい学校でいいのでしょうかと言う方もいたという話を聞きました。でも子どもたちが一生懸命自分たちの学校で頑張っています。そういうことをやっていれば、この小学校が私たちの学校なんだ、という学校を卒業して、みんなで頑張ろうという気持ちで特認校にして、これから頑張ろうという姿を見せているのですから、皆さんには本当に支援をしていただきたい。皆さんは学識も見識も多種多様な意見もあると思います。いろいろな見方があると思います。一つにまとめるというのは、これはどんな会議でも無理です。100%賛成を得ようとは思いません。でもこれは阿見町始まって以来の、小規模特認校という特別な制度です。それを試してみようとやっている学校を皆さんに支援していただきたいと思っています。ですので、文言がどうだという問題ではなく、みんなに支援していただきたいと思っているんです。先ほどおっしゃいましたように、100何十名の後援会代表として来ていますので。</p>
委員	<p>今、委員がおっしゃったように、やってみなければわからないと思います。やってみてから決めればいいのではないのでしょうか。小規模特認校は認めます。ですが君原小が存続することは認められないです。</p>
委員	<p>どういうことですかそれは。同じ学校で。その理由はなんですか。</p>
委員	<p>この文面が気に入らないと言っているんです。</p>
委員	<p>文面のことじゃないと思うんです私は。</p>
委員	<p>小規模特認校は認めますし応援します。ここに書かなければならないんですかと言っているんです。</p>
委員	<p>じゃあ賛成で良いじゃないですか。</p>
委員	<p>だから賛成していると言っているじゃないですか。けれどこの文言が、今までと大幅に変えてしまって、君原小を抜いた6校でいくというのと、君原小を小規模特認校にするという文言がよろしくないんじゃないかという話をしているんです。存続させたい気持ちはすごく分かるんですが、先ほど委員も言ったとおり、君原小を残したいというメインのことがないんです。ここに小学校がないと困ってしまうという。そんなの吉原小も実穀小も第二小も同じじゃないですか。ここになかったら困ってしまう</p>

	<p>じゃないですか。</p>
委 員	<p>じゃあ合意はなんだったんですか。</p>
委 員	<p>合意とかそういうことではなくて、まず、そういうのを言ってしまったら、第二小だって吉原小だって実穀小だってここにはないと困るじゃないですか。</p>
委 員	<p>困るんだったら絶対に反対して存続する方法を考えれば。</p>
委 員	<p>けれどその時は、今はすごく良識ある町長と教育長が君原小のことを理解して、色々と考えてくれています。前回も同じことを言いましたが、結局統合せざるを得ないような状況を作らされたのを、何もわからないのにそういう風に言われてしまうのが一番困ってしまうんです。今はいい町長がいるので、こういう風に色々な意見ができますが、私たちの場合は意見も何も出せなかったんです。だからこそちゃんと大きな、君原小を残したいという理由が欲しいんです。</p>
委 員	<p>事務局に質問ですが、特認校はどこに申請するのですか。もし仮にだめになっても、取り下げることが簡単にできるのですか。</p>
事 務 局	<p>小規模特認校制度について、前回の委員会でもご説明しましたが、特に国や県の許認可を得て実施するものではありません。町の教育委員会で決定すれば実施できるものです。もしこれをやってみてダメでしたとなれば、町の教育委員会で小規模特認校をやめるという決定をすることでできます。あくまで国、県の許認可が必要なものではありませんので、何か申請を取り下げるといったものではありません。</p>
委 員	<p>でしたら、町で決められるのでしたら大幅に書き換える必要がない気もしますが。</p>
委 員	<p>そこにこだわるのがよくわかりません。</p>
事 務 局	<p>これも役所的な発想で皆さんにご提案しているのを大変申し訳なく思いますが、この再編計画は平成 25、26 年と 2 年間かけて、その時の委員の皆様、各地区の区長さん、PTA 会長さん、もろもろの皆様にお集まりいただいて、この再編計画が出来たわけです。この計画は生きています。今後もこの計画は生きるわけですし、そこに小規模特認校制度という文言が入っていないことから、今回見直しの提案をさせていただいたわけです。特に、[資料 5] の 4 ページをご覧くださいと思います。今回の提案の究極は、君原小を小規模特認校とする、この一言です。究極は、これに対して文言の中で、役所的で申し訳ありませんが整合性をとるために、(4) の小規模特認校についてであったり、そういった文言を付け加えているわけですし、あくまで君原小</p>

	<p>を小規模特認校にする、その一点の提案でございます。それに基づいて文章的な整合性をとっているというだけのことです。なおかつ、この概要版 2 ページの (2) 望ましい学校規模①小学校の一学年 2 学級以上というのは全くいじりません。今回のご提案でもいじっておりません。下に提案しているのは、ただし、小規模特認校を除くの一文のみです。もし小規模特認校をやってみて上手くいかなければ、当然この文言を削除する作業に入っていきます。そうすると当然、この望ましい学校規模、一学年 2 学級以上というのも生きていますので、これをなくすわけではありませんので、そうなれば当然、廃校に向かっていくのだらうということになるかと思えます。その時はまた検討委員会を開いて、この修正を図っていくということですので、その点が本当にややこしくて申し訳ありませんが、繰り返しになりますが概要版 4 ページの君原小を小規模特認校とする、このための提案をさせていただいているということでご理解いただきたいと思います。</p>
委員	<p>だったらなおさら、君原小ではなくて、阿見町の全小学校は小規模特認校を認めるといった感じの方がよっぽど、どの学校でももしかしたら人数が少なくなった場合にそういうのができるわけじゃないですか。だから君原小だけじゃなくて、阿見町小学校という文言の方がよっぽどいいと思いますが。</p>
事務局	<p>そういう状況になったときは、正にその通りだと思います。その時にまた改めて再編検討委員会を招集して、また見直しをさせていただくと。それは今回の君原小検討委員会からの要望が出たのが 5 月で、その後 7 月に町教育委員会も君原地区に訪問しまして、〔資料 5〕にもありますが令和元年 7 月 31 日に町主催の検討委員会を開いています。そういう流れの中で例えば要望が出て、1 年、2 年、3 年と置いてから提案しているわけではございません。何かそういったアクション等があれば、できるだけ速やかにこういった再編検討委員会を招集して、ご協議をいただくという形を今後もとってまいりたいと思いますので、ご指摘いただいたような事態が生じたときには速やかにまた協議をしていただきたいと思います。</p>
教育長	<p>委員、参考のために委員が許容できる範囲の表現というのがどういうものか示していただけますか。</p>
委員	<p>小規模特認校を認めるというような文言をどこかに入れて、君原小をとほうたわずに。うたとすれば、4 の再編計画というのは 5 校に再編するというのは残して君原小を小規模特認校とするというのはここに書かずに、例えば君原小を小規模特認校として運用するというのを別の項目に書くとか。</p>
教育長	<p>この 5 校に再編するというのは生かして。</p>

委員	<p>はい。そもそも再編を考えたのは、例えば小学校を少人数で継続することによって、単に子どもたちのためだけではなくて、子どもたちだけのためならそんなに再編を急ぐ必要もなかったと思うんです。でも実際に町として学校の運営だったり、維持にお金がかかるから再編を考えたのではないですか。</p>
教育長	<p>前はですね。</p>
委員	<p>そうですね。そう考えたら、本当に子どものことを考えなかったら、君原小以外の地区の人間は、君原小の校舎を維持するためのお金、税金を払っていくことになるわけです。そういう決めごとを我々ここにいる人間だけで決めてしまうということ、今強いられようとしているわけです。そういう重たいことを求められていると思うのですが。ですから、君原小がまだ小規模特認校として上手くいくかもわからない中で、このまま存続することを認めるという形にしてしまうと、我々の責任が重すぎます。まずは君原小を小規模特認校として運用する、という文言はどこかに書いても良いと思いますが、この6校に再編するという文言は、君原小以外の小学校地区の人たちが納得しないことになると思うんです。特に、第二小、実穀小、吉原小は絶対に納得できない、納得いかないと思うんです。その反対意見が分かるからこそ、こうやって言っているわけです。正直なところ、町のPTA連合会でも、君原小存続ありきで話が進んでいるのはちょっとおかしいのではないかという意見もあります。たぶんそれが、おそらく大多数の方の気持ちだと思うんです。ですから5校に再編するという形を残して、君原小が点線のまま統合対象校であればまだ分かりますが、矢印くらいは消しても君原小は点線にするとか。</p>
委員	<p>今のご意見を踏まえてということですが、事務局の役所としてという言葉もよく分かります。一つの案だけなので余計紛糾してしまったと思います。案1、案2と二つくらいあればよかったのかなとも思います。それで折衷案という訳ではありませんが、私も考えていたのですが、この4ページの5校に再編するというのがありますよね。そこに役所特有の但し書きを付けたらどうかと思うんです。ただし、社会状況の変化だとか、そういう環境に応じて別途小規模特認校として認める必要がある場合はそれを行うといった但し書きをつけるというのもちよっと考えたのですが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>君原小を小規模特認校として何年間運用してみるといった表現の方が良いのかもしれないですね。何年間という具体的な数字を出して。そこで成果が出ないのであればもう統合ということになってしまうのかもしれませんが。</p>
委員	<p>そうすれば、ちょっと話がずれてしましますが、第二小の件ももしそういうのがまた出てきたときには、この再編委員会をやらなくて済みますよね。</p>

委員	5年間やってみて、5年後またどうするといった内容の方が。
事務局	そういう内容の方が理解されるということですよ。
委員	そうですね。
委員	そうじゃなくてもどんと来てしまうから、反発が出るんじゃないかなと。
委員	そうです。
事務局	君原の方も何年間かやって、それでもという話が出ていましたよね。そういうことで何年くらいやるんだということが明記されると、きっと皆さんも理解できるということでしょうかね。
委員	皆さん君原小が小規模特認校をやることに反対ではないんです。けれどもこの文言とか、持って行き方が、あまりにも前の統廃合した学校に配慮が全くないじゃないですか。ないですよ。
事務局	はい、わかります。
委員	さっき言ったようなことが入れば、じゃあ教育委員会として君原からこういう要望があったから認めて実施しましたよという形がとれると思うんですね。
事務局	今日、この時間ではもう難しいので年内にもう一度開かせていただいて。
委員	年内にもう一度やるのですか。
委員	これは期限的なものが決められているのですか。
事務局	別にないです。
委員	お金の問題ですか。来年度の予算の問題で。
事務局	いえ、そんなことはないです。
委員	ではなぜ急ぐのですか。

事務局	いえ、急いではないです。
委員	でもできれば来春からできるのが理想じゃないですか。
委員	来春からやるのに期限があるのではないですかと聞いているんです。
事務局	年度途中からでも、決まれば入学できるようにはしたいと思っています。
委員	年度途中ではなく、年度当初からやるのには。
事務局	年度当初からやるのには、やはり年内とか1月くらいまでに決まらないと。
委員	阿見で初めてのことをやるのに、年度途中はないのではないですか。4月からやらないと。そこに目標を定めないと。それはうまくないでしょう。
事務局	ただ、学校側としても一日も早くしてほしいという気持ちです。本来、学校は4月から始まりますから、そこに間に合うようには。
委員	間に合うようにするためには、ここまでは決めなくてはならないというものがあるのではないかと聞いているんです。
事務局	年内には結論を出したいです。もう一度年内に会議を開かせていただきたいと思います。
委員	そこまでに学校の特色とか、どうやって運営していくのかを。
委員	じゃないと手を挙げられないですよ。
事務局	繰り返しになりますが、どうしても役所的な観点で文言の整合性をとるための提案をさせていただいていますので、ご理解をいただきたいと思います。その上で、例えば今回ご提案させていただいたのは、答申書を承認していただいたとした場合、答申書をこの再編検討委員会から教育委員会にお出しいただくようになります。その中に只今いただいたような意見を付帯意見として、ただし小規模特認校として実施して上手くいかないときは廃校ということですか、いろいろなご意見を頂戴したかと思いますが、そういった文言を付帯意見としてつけていただいて、答申をいただくという形をとれば、ありがたいと思います。
委員	それではあまり意味がないというか、町の方は再編計画のパンフレットを見るわけ

	<p>ですよね。ここにどう書いてあるかが問題であって、別の紙があるからというのは誰も見ないと思います。</p>
事務局	<p>もちろん答申書についても必要であればホームページ等で公表して、結果を町民に知らせることは当然考えています。</p>
委員	<p>その文言がどうかというのは、まず本題は君原小の小規模特認校を皆さんが承認してくださるかどうか、一番の主眼はそれなんです。文言は後で、いつの回でもいいです。でもこの人数を見ても本当に早急な問題なんです。皆さんには早急さが感じられないと思います。特認校として出発するかどうか、途中からではなく4月からしていただきたいと思っています。ですから特認校として皆さんに支援していただけるかどうか、これをお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>文言はどうでもいいと言いますが、文言がすごく重要なのだと思うんです。特認校として運用を認めるかという多数決をとったら、たぶん皆さん手を挙げます。けれどこの文言で、この案に賛成かという多数決をとったら、反対意見が多くなると思います。現時点で。ですので、特認校として運用してよいかというゴーサインをこの紙とは別に、この再編計画とは別に出したうえで、この内容は別途考えるとやれば、来年度に向けて走り始めることはできて、かつ皆さんが納得できるような文言になるのではないのでしょうか。今日はもう遅いのです。</p>
委員長	<p>多くの委員の皆様からご意見をいただきました。ですから事務局として、時間もだいぶ経過しましたから、この意見を踏まえて年内早くに、どういう文言にするかの案を作られたらいかがでしょうか。それで案を作られて、どうしてもこの案で行きたいということでしたら、もう一度この案を出したらいかがでしょうか。次回早めに提案していただくことで事務局はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>そのようにさせていただければと思います。本日賜りましたご意見を急いで議事録を作成しまして、今回ご提案させていただいた案についてどのように修正をできるかを検討していきたいと考えています。ですが、これは繰り返しになりますが最低限の部分です。役所としてはこの中の整合性を図らないとなりません。ご意見の中で、少し小規模特認校のことを入れればこんなにいじらなくてもいいのではないかと、この意見もいただきました。なるほどそうだなと思います。ですが役所の論理で、計画の中の整合性をとらないとということがあります。それは役場内でも、何か物事を作ったときは文書法制系の審査を受けて、どこか整合性がとれないところはだめですよというところがあります。少しでも言葉足らずのところがあると拡大解釈をされてしまうとか、あるいはそれはおかしいのではないかと批判を受けかねないものですから、どうしてもこの提案を本日させていただいたということだけのご理解をいただきたい</p>

	<p>と思います。ただ次回、どのような形になるか分かりませんが本日の議論をしっかりと踏まえて、改めて提案をさせていただきたいと考えています。次回の委員会については、12月16日の週に開催させていただきたいと思います。詳細については分かりかねるところですが、16日の週に開催したいと思います。</p>
委員	<p>具体的な日にちは出ないでしょう。</p>
事務局	<p>具体的な日にちはここで出せず申し訳ございません。逆に、どうしてもだめという日がありましたら。</p>
委員	<p>教育長と委員長のスケジュールが合えばそれで構いません、我々はそれでいいですから。</p>
事務局	<p>わかりました。</p>
委員長	<p>では次回、大変でもお集まりいただいて、事務局で作成した案について検討し、最終的に決定するという気持ちで来ていただければと思います。</p>
委員	<p>色々な意見が出ていますが、もしここで認められるなら気持ちよく認めてあげて、さあ君原小頑張れと、教育委員会を我々も応援するから頑張れと、そういう雰囲気です。認めないならこれでいいです。だめですというならそれはそれでいいですが、認めるならば気持ちよく認めて、さあ頑張れと。阿見で初めてのことでですから、失敗するんじゃないぞと、そういう気持ちをもって我々がやってあげるのが励みにもなるだろうし、16日の週もなるべく早くやって、4月の新学期からピタッとやると。それで気持ちよく頑張れとやってあげればと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは本日の議事は終了したいと思います。進行役は事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>委員長ありがとうございました。最後に閉会のことばを副委員長、お願いします。</p>
副委員長	<p>慎重審議の中、色々なご意見をいただきました。先ほどの久保谷委員がおっしゃられたように、賛成するなら強力に賛成するというのが私たちの気持ちです。そのような方向で皆様には進めていただきたいと思います。長時間にわたりありがとうございました。以上で第2回学校再編検討委員会を閉会します。</p> <p>(午後9時40分閉会)</p>